

一般演題 (ポスター) 思春期のケア

座長: 鈴井 江三子 (兵庫医療大学)

P-24

子どものセクシュアリティに関する親の認識

—小学4~6年生を持つ母親に着目して—

○久保田美雪¹⁾ 渡邊典子¹⁾ 小柳恭子²⁾

1)新潟青陵大学看護学部看護学科 2)とくなが女性クリニック

I 緒言

性教育においては、家庭と学校、地域それぞれの立場における役割や連携が課題となっている。そこで、本研究は、家庭に焦点を当て、親が子どものセクシュアリティに関連した心身の変化をどのように認識し、対応しているか等、明らかにすることである。

II 方法

調査対象は、A市の全小学校111校に調査を依頼し、協力が得られた7校の小学4~6年生の保護者1030人。調査方法は、2015年7月、各小学校から児童を通じて保護者へ質問紙を配布し、郵送にて回収。調査内容は、子どものセクシュアリティに関する親の認識や対応等についてである。分析は、Microsoft Excel 2010を用い、記述統計を行った。倫理的配慮として、調査に関する説明および依頼文書に基づき書面で説明し、調査用紙への回答と返信により研究への同意の意思確認とした。本研究は、新潟青陵大学倫理審査委員会において承認を得て、実施した(承認番号:2014004)。

III 結果

回答者203人(回収率19.7%)のうち、父親を除く母親198人を分析対象とした。対象者の平均年齢は41.9歳、パートナーあり185人(93%)であった。子どもの性別は、男子94人、女子86人、男子と女子の両方23人であった。

子どもの心身の変化について「時々意識している」46%、「常に意識している」35%、心身の観察について「時々観察している」63%、「いつも観察している」26%であった。子どもの精通または月経の有無について「あり」13%、「なし」70%、「分からない」18%であった。

子どもとの性の会話について「話をしている」38%、子どもからの性の相談について「相談がある」は23%であった。その相談内容を自由記載からみると「人の誕生のメカニズム」「月経時の対応」「精通の意味」「第二次性徴に伴う身体の変化」等であった。子どもからの性の相談で「困ったことがある」は15%であり、その内容を自由記載でみると「人の誕生のメカニズム」「精通、包茎、月経の意味」「性情報」「性暴力」等であった。

子どもの性に関する相談相手は「パートナー」71%、「友人」62%、「兄弟」「親の世代」18%であった。子どもの性に関する情報源は「友人」50%、「テレビ・ラジオ」36%、「インターネット」32%であった。母親が感じている子どもの性に関する難しさや問題点は「話すタイミング分からない」52%、「何を話していいか分からない」42%であった。子どもの性に関してパートナーや家族に期待することについて「期待することはない」66%、「期待することがある」26%であった。期待することがある内容を自由記載でみると、「同性としての役割(分担)」が大部分であった。

IV 考察

母親の7割が子どもの心身の変化を意識し、観察していることから、第2次性徴をふまえ、子どもの成長を見守っていた。そして母親の4割弱が子どもと性の会話をし、また、約2割が性の相談を受け、子どものセクシュアリティに対応している様子がみられた。一方、話すタイミングや内容に難しさを感じているのは約5割いた。このことから、性教育における家庭と学校、地域の役割や連携の推進には、親が家庭での子どものセクシュアリティに対応する力を発揮できる支援が必要であることが示唆された。

V 結論

小学4~6年生を持つ母親は、子どもの第2次性徴をふまえ、心身の変化を意識し観察しており、子どものセクシュアリティに関心をもっていた。また、子どものセクシュアリティに関して難しさや問題点を抱えていた。